

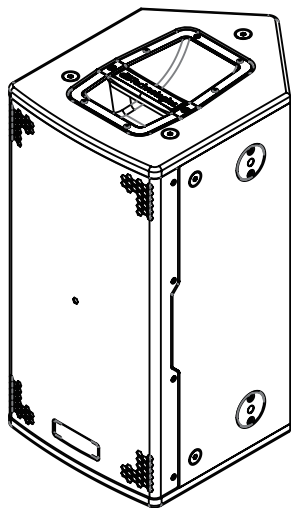
dBTechnologies

VIO X シリーズ

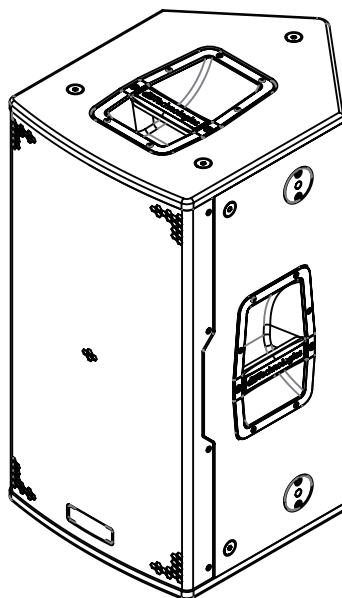
VIO X10 / VIO X12 / VIO X15

2-Way アクティブスピーカー

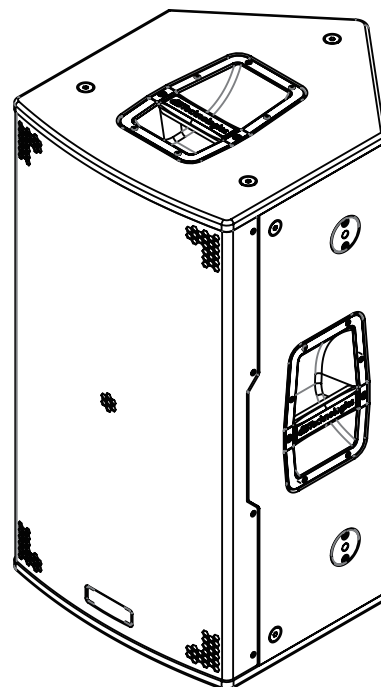
取扱説明書



VIO_{X10}









VIO_{X12}



VIO_{X15}









安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出た、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災/感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) に修理をご依頼ください。 万一、煙が出ていたり、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災/感電の原因となります。 定期的(年1回くらい)に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災/感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。 火災/感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(20cm以上)離して設置する隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災/感電の原因となります。</p> <p>適切な器具を用いることなくスピーカーを吊り下げない スピーカーのハンドル部を使って吊り下げない 落下や故障の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災/感電の原因となります。</p>
 <p>分解禁止</p>	<p>この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災/感電の原因となります。 内部の点検/修理は販売店またはティアック修理センター (巻末に記載) にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災/感電の原因となります。</p>

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>指示</p>	<p>設置の際は、資格や経験を持った人(専門業者)に必ず依頼する 天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する 使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。 天井/壁/柱/床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。</p>
	<p>注意 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災/感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>指示</p>	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災/感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災/感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 <p>注意</p>	<p>5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック 修理 センター (巻末に記載) にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために.....	2
目次.....	4
商標および著作権に関して.....	4
はじめに.....	4
本製品の構成.....	4
別売りアクセサリ.....	4
ユーザー登録について.....	4
本書の表記.....	5
設置上の注意.....	5
結露について.....	5
製品のお手入れ.....	5
アフターサービス.....	5
本機の概要.....	6
設置方法.....	6
三脚を使用して設置.....	6
壁掛け設置.....	7
ウェッジ設置 (モニタリング用途).....	7
各部の名称.....	8
電源パネル.....	8
コントロールパネル.....	8
電源および外部機器との接続.....	9
電源と電源リンクの接続.....	9
オーディオ信号の接続.....	10
適合ケーブル.....	10
RDNetの接続.....	10
DSPプリセット.....	11
トラブルシューティング.....	11
各種ダウンロード.....	12
F/Wアップデート	
(USB Burner Manager ソフトウェア).....	12
リモート機器の取扱説明書ダウンロード先.....	12
アクセサリの取扱説明書ダウンロード先.....	12
AURORA NET ソフトウェアのダウンロード先.....	12
ソフトウェアの使用に関して.....	12
仕様.....	13
一般.....	14

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- NeutrikおよびetherCONは、Neutrik AGの登録商標です。また、powerCONおよびTRUE1は、Neutrik AGの商標です。
- DigiproはAEB INDUSTRIALE SRLの商標です。
- dBTechnologiesはA.E.B Industriale SRLのそれぞれの国における商標または登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

はじめに

このたびは、dBTechnologies VIO Xシリーズをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、未永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書(日本語)は、TASCAMのウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://tascam.jp/jp/>

- 最新版の取扱説明書(英語)については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、"VIO X"の項目を選択し、上段"Manuals"の列から対象となるPDFファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- スピーカー本体..... × 1
- Neutrik powerCON TRUE1付 電源コード..... × 1
- 取扱説明書(本書、保証書付き)..... × 1

別売りアクセサリ

輸送や本体保護のために、下記の別売 アクセサリがご使用になります。

VIO X 10 アクセサリ

- WB-VIOX10H 壁掛けブラケット(水平取付用)
- WB-VIOX10V 壁掛けブラケット(垂直取付用)

VIO X 12 アクセサリ

- WB-VIOX12H 壁掛けブラケット(水平取付用)
- WB-VIOX12V 壁掛けブラケット(垂直取付用)

VIO X 15 アクセサリ

- WB-VIOX15H 壁掛けブラケット(水平取付用)
- WB-VIOX15V 壁掛けブラケット(垂直取付用)

VIO X 共通アクセサリ

- RC-M1 レインカバー
- SSB 2 ポールマウント

ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://tascam.jp/jp/login>

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を“MAIN”のように“ ”で使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏-5度～50度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム(うなり)を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出る場合があります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出る場合があります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付(巻末に記載)されています。大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店/ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
 - 保証期間はご購入日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター(巻末に記載)が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
 - 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、ご購入の販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
 - 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、ご購入の販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)までご連絡ください。
 - 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番 (VIO X xx)*
 - 製造番号 (Serial No.)
 - 故障の症状 (できるだけ詳しく)
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
 - お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
 - 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。
- * ご使用中の[VIO X 10/ VIO X 12/ VIO X 15]いずれかの型名をお知らせください。

本機の概要

dBTechnologies VIO Xシリーズは、2-Wayアクティブスピーカーです。

高域用(HF)に、それぞれ1個のコンプレッションドライバー(ボイスコイル)と中低域用(LF)に、それぞれ1個のユニット(ボイスコイル)を搭載しています。

● HF

VIO X10	: 1インチ・ドライバー (1.75インチ・ボイスコイル)
VIO X12	: 1.4インチ・ドライバー (2.5インチ・ボイスコイル)
VIO X15	

● LF

VIO X10	: 10インチ (2.5インチ・ボイスコイル)
VIO X12	: 12インチ (3インチ・ボイスコイル)
VIO X15	: 15インチ (3インチ・ボイスコイル)

VIO Xシリーズは、以下の特徴を備えています。

- ライブのモニター用途として、サイズおよび質量を最適化し、プロの現場で多用途に使える設計をされています。

- 本機の筐体は、黒 ポリウレア 塗装の木製 キャビネットを使用し、丈夫で軽さに優れています。また、持ち運びがし易いように天面(VIO X12/VIO X15は、側面にも装備)にハンドル(※)を装備しています。

※ 設置の際に本体のハンドルを使って固定などしないでください。

- 本機は、実用最大出力 1800 W/RMS出力 900 W(※)を実現するクラスDのDigipro G3アンプを搭載し、電圧自動切替機能を備えたスイッチング電源により、冷却ファンを排除した静かな動作を実現しています。

※ AC120 V時での値になります。

- 一対の入出力端子(XLR 端子)には、バランスアナログ信号による他の音源(ミキサーなど)や、デジチェーン接続で繋いだ他のスピーカーからの入力が可能です。また、本機から他のスピーカーへデジチェーン接続による出力が可能です。

- 本機のカバレッジは、水平方向で60°(VIO X12/VIO X15)~90°(VIO X10)で、垂直方向は40°(各機種共通)の範囲で変化しています。

モニター用途や横置き(ウォールマウント時)では、これらの数値を参考にして適切なカバレッジが得られるようにしてください。

- 様々な使用状況に対応するDSP制御による7種類のイコライザーをプリセット済みです。(→ 8ページ「各部の名称」)

- RDNet接続(※)によって、PCからのリモートコントロールが可能となり、コントロールソフトウェアdBTechnologies Aurora Net経由で使用環境に応じたDSPプリセットをカスタマイズすることができます。また、接続されているPAシステムのオンタイムなモニタリングも可能です。

※ 別売りオプションのリモート機器[RDNet Control 2]または[RDNet Control 8]が必要になります。詳細は、リモート機器の取扱説明書を指定ページからダウンロードして参照してください。(12ページ「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照)

設置方法

電源を入れる前に、必ず、本機のInput Sens. ⑨(入力感度調節ボリューム)が最小値であることを確認してください。

また、本機に接続している音源側の機器の音量も最小にしてください。(各端子類や操作部については、8ページの「各部の名称」、電源コードや各ケーブルの接続方法については、9ページの「電源および外部機器との接続」を参照してください。)

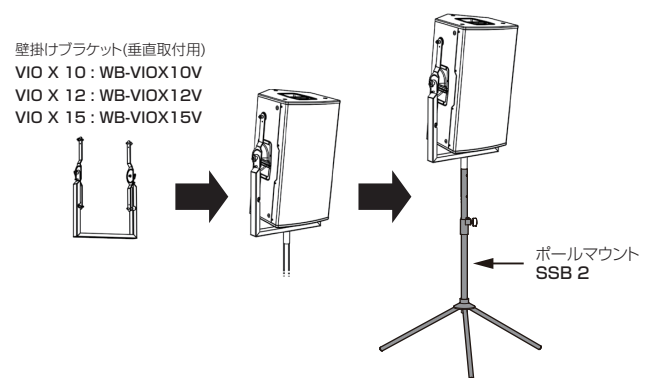
注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

- 設置は、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- 本体のハンドルや本体ブラケットを使って本機器を吊るさないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしっかりと固定・組み立てされているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。
- スピーカーを吊り下げる場合は、すべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。

三脚を使用して設置

本機に別売りの壁掛けブラケット(垂直取付用)とポールマウント(三脚)を組み合わせて、スタンド設置できます。



注意

- 安定した設置のために、ポールマウント三脚(SSB2)の接地脚を伸ばした状態で設置してください。
- 安定した設置のために、スピーカー底部と床との高さは、145 cm以下にしてください。
- ポールマウント三脚(SSB2)を使用する場合、安全上の理由で2台をスタックさせることはできません。必ず1台のみで使用してください。

壁掛け設置

本機は、専用の別売の壁掛けブラケットを使って、水平または垂直に壁掛け設置することができます。

専用壁掛けブラケットの使用の詳細は、12ページの「アクセサリーの取扱説明書 ダウンロード先」を参照してください。

専用壁掛けブラケット

[水平取付]

- WB-VIOX10H 壁掛けブラケット (VIO X10専用)
- WB-VIOX12H 壁掛けブラケット (VIO X12専用)
- WB-VIOX15H 壁掛けブラケット (VIO X15専用)

[垂直取付]

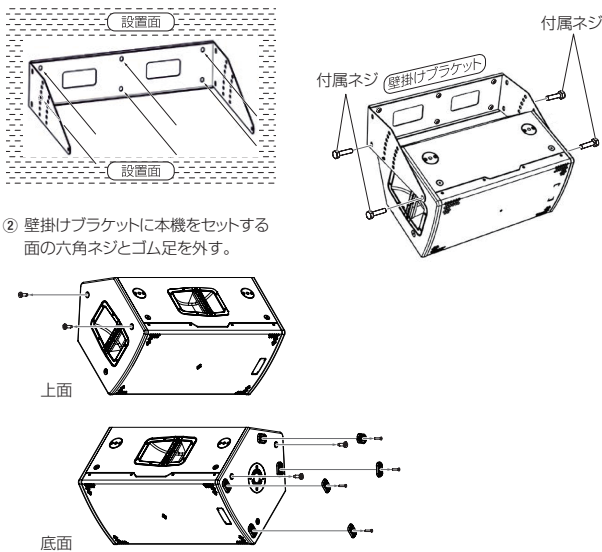
- WB-VIOX10V 壁掛けブラケット (VIO X10専用)
- WB-VIOX12V 壁掛けブラケット (VIO X12専用)
- WB-VIOX15V 壁掛けブラケット (VIO X15専用)

ブラケットの取付け

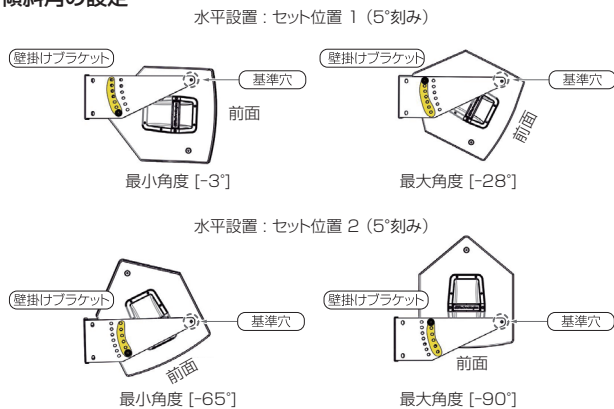
[水平取付]

壁掛けブラケットの設置

- ① 設置面にアンカー等を使用して、壁掛けブラケットをしっかりと固定する。
- ② 壁掛けブラケットに本機をセットする面の六角ネジとゴム足を外す。
- ③ 設置したブラケットに本機を希望の角度で、セットして付属のネジで、本機を固定する。



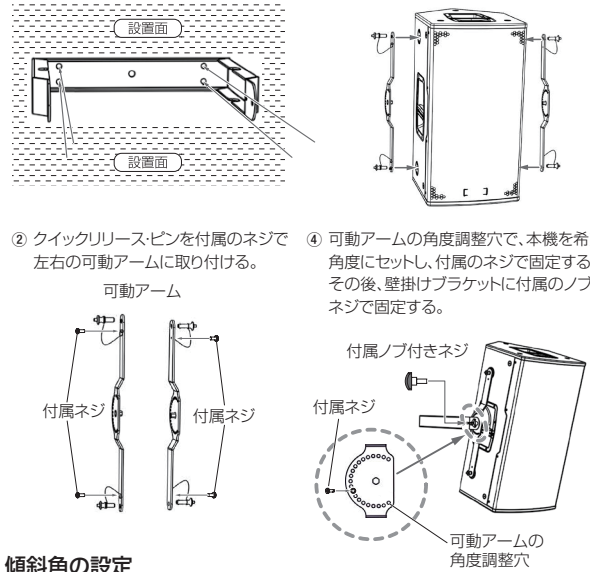
傾斜角の設定



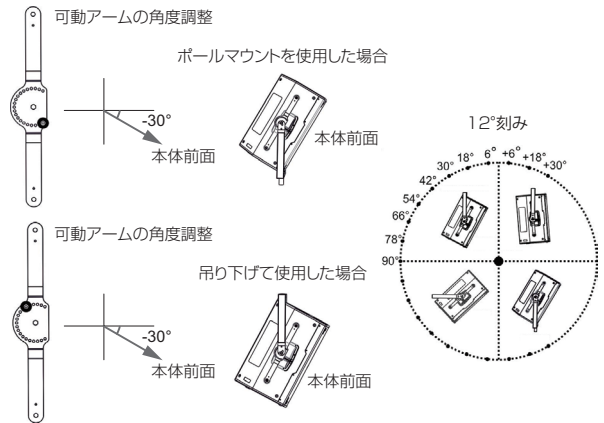
[垂直取付]

壁掛けブラケットの設置

- ① 設置面にアンカー等を使用して、壁掛けブラケットをしっかりと固定する。
- ② クイックリリースピンを付属のネジで、左右の可動アームに取り付ける。
- ③ 本機の左右側面に可動アームに装着したクイックリリースピンを取り付ける。
- ④ 可動アームの角度調整穴で、本機を希望の角度にセットし、付属のネジで固定する。その後、壁掛けブラケットに付属のノブ付きネジで固定する。

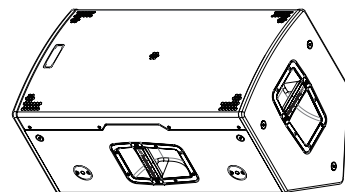


傾斜角の設定



ウェッジ設置 (モニタリング用途)

小さなライブ会場などでは、本機をモニター用として使用することができます。その場合は、スピーカーの傾斜面を下にして水平に置いてください。

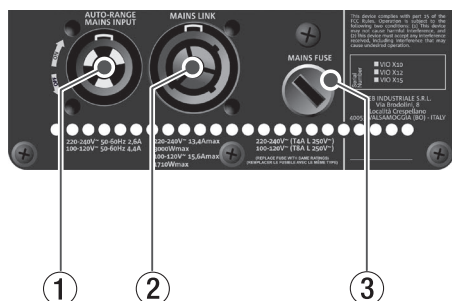


その際、サウンド・カバレッジの特性に関しては、13ページの「仕様」を参照してください。

DSP設定は使用用途に応じて、適切な設定を選んでください。(→ 11ページ「DSPプリセット」)

各部の名称

電源パネル



① AUTO-RANGE MAINS INPUT

AC電源 端子(Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子)
付属のNeutrik社製 powerCON TRUE1 付電源コードを接続
します。
電源コードを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると
端子がロックして、電源が入ります。

注意

- 電源を入れる前に必ず、本機のInput Sens. ⑨(入力感度調節
ボリューム)のレベルが最小のポジションにあること、また音源
側の機器の音量が最小であることを確認して下さい。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを
全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは
新しいものと交換してください。

② MAINS LINK

電源リンク 端子(Neutrik社製 powerCON TRUE1 端子)
他のサブウーファーやアクティブスピーカーなどに電源を供給
する端子で、AUTO-RANGE MAINS INPUT ① 端子とは、
並列接続になっています。

ご使用時は、別売りの専用Neutrik社製 powerCON TRUE1
付LINKケーブルをお使いください。

MAINS LINK(電源Link 端子)の最大供給電流は、下記の表に
記述してある許容範囲まで、スピーカーを接続することができ
ます。

MAINS LINK 端子の最大供給電流 (AC100-120V時)

15.6 A (max)/1710 W (max)

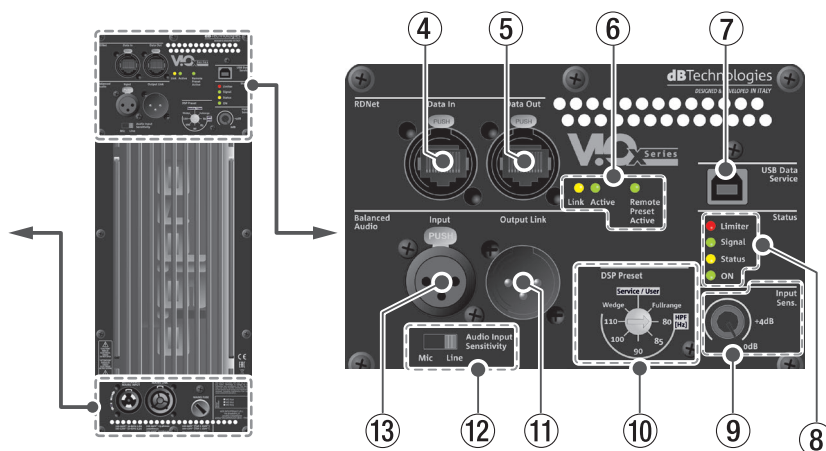
電源LINKケーブルを接続して、プラグ端子を時計回りに回転
させると端子がロックして、電源が入ります。

③ MAINS FUSE

フューズホルダー

万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック
修理センター(巻末に記載)にご相談ください。

コントロールパネル



④ Data in (RDNet ネットワーク接続用)

データ入力 etherCON 端子 (Neutrik社製)
別売りのネットワークコントローラー RDNet Control 2または
RDNet Control 8に接続します。
また、他のRDNet対応スピーカーからデジチェーン接続
の入力として使用します。

⑤ Data Out (RDNet デジチェーン出力用)

データ出力 etherCON 端子 (Neutrik社製)
本機を複数台設置するスピーカー構成で、他のRDNet対応ス
ピーカーにデジチェーン接続の出力として使用します。

⑥ コントロール LED

RDNetネットワーク関連のステータスLEDです。

- Link LED (黄色)
RDNetネットワークがアクティブの場合に点灯します。
- Active LED (緑色)
RDNetネットワーク上でデータ通信を行っている際、
点滅します。
- Remote Preset Active LED (緑色)
本機がRDNetネットワーク上で、制御(リモートコント
ロール)されている場合に点灯します。

RDNetネットワークの使用の詳細は、12ページの「リ
モート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

⑦ USB Data Service

サービスデータ 端子 (USB Bタイプ)

本機のF/Wをアップデートする際、使用します。

F/Wのダウンロード方法は、12ページの「F/Wアップデート
(USB Burner Manager ソフトウェア)」を参照してください。

⑧ ステータス表示 LED

● Limiter LED (赤色)

入力信号の歪み音や他の不具合で内部 リミッターが作動した場合に点灯します。

(本機の不具合で停止した場合は、点滅します。)

これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

注意

Limiter LED が連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷がかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

● Signal LED (緑色)

オーディオ信号が入力されている時に点滅し、適正な入力信号時のみ点灯します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

● Status LED (黄色)

電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。

アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、Status LED が点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。

その他の不具合で停止した場合は、点灯します。

● ON (緑色)

正常に状態で動作している時、またはその他の不具合で点灯します。

本機の不具合で停止した場合は、消灯します。

⑨ Input Sens. (入力感度調節ボリューム)

アンプ部に入力する信号の感度を調整します。

電源を投入する前は必ず、最小値に設定してください。

⑩ DSP Preset

入力ソースや設置環境に合ったDSPプリセットをロータリースイッチで選択します。

(→ 11ページ「DSPプリセット」)

⑪ Output Link

XLRバランス出力端子

XLR端子によるアナログバランス出力端子で、本機を複数台設置する際にデジチェーン構成で出力するオーディオ信号の接続や他のアンプ内蔵スピーカーにオーディオ信号を出力する際に使用します。

⑫ Audio Input Sens. (入力感度切替スイッチ)

- [Line]: Input ⑬ に音源(ミキサーなど)を接続する際、または本機に他のスピーカーをデジチェーン接続をする場合に [Line] 側に切り換えてください。

- [Mic]: Input ⑬ にマイクを接続する場合、[Mic] 側に切り換えてください。

⑬ Input

XLRバランス入力端子

XLR端子によるアナログバランス入力端子で、ミキサーや他のスピーカー(音源)のバランス信号入力が可能です。

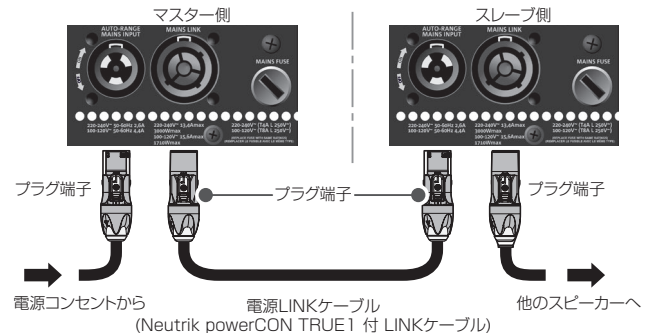
注意

電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。

電源および外部機器との接続

本機は、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカー(マスター側)から、2台目以降のスピーカー(スレーブ側)にデジチェーン接続で供給することができます。

電源と電源リンクの接続



電源の接続

本機のAUTO-RANGE MAINS INPUT(AC電源端子)①に付属のNeutrik powerCON TRUE1付電源コードを接続し、プラグ端子を時計回りに回転させて、ロックしてください。

ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

注意

- 電源を入れる前に必ず、本機のInput Sens. ⑨(入力感度調節ボリューム)のレベルが最小のポジションにあること、また音源側の機器の音量が最小であることを確認して下さい。
- 電源コードは必ず、付属のNeutrik powerCON TRUE1付電源コードをご使用ください。また、電源LINKケーブルも必ず、Neutrik powerCON TRUE1付LINKケーブル(別売り)をお買い求めの上、ご使用ください。それ以外のコードやケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。(弊社は、不適切なケーブルやコード類またはアクセサリの使用もしくは追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたコードやケーブルは、新しいものと交換してください。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 濡れた手または、機器や電源コード(または電源LINKケーブル)が濡れた状態で、絶対に電源コード(または電源LINKケーブル)の接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。

電源リンクの接続

MAINS LINK(電源Link端子)②は、マスター側からスレーブ側に専用Neutrik powerCON TRUE1付LINKケーブル(別売り)を使って、デジチェーン接続が可能です。

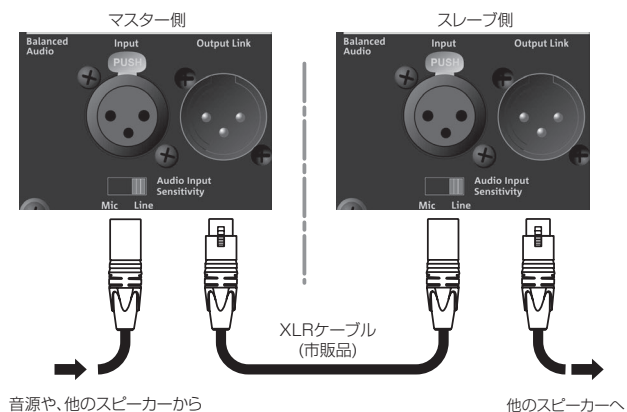
- まず、マスター側の本機のAUTO-RANGE MAINS INPUT ①に、Neutrik powerCON TRUE1付電源コードを前述の「電源の接続」の方法で接続し、その片側を電源コンセントに接続します。
- 次に、専用Neutrik powerCON TRUE1付LINKケーブル(別売り)で、マスター側のMAINS LINK ②とスレーブ側のAUTO-RANGE MAINS INPUT ①に接続します。

上記の接続を繰り返し、マスター側のMAINS LINK ②の下側に記載された最大供給電流に達するまで、スレーブ側のスピーカーを接続することが可能です。

オーディオ信号の接続

同一音源を2台以上のスピーカーに接続する場合、マスター側からスレーブ側に送出することができます。

- まず、音源機器からのオーディオ信号をマスター側のInput (XLRバランス入力端子) ⑬に接続した後、バランスXLRケーブル(市販品)を使って、マスター側のOutput Link (バランス出力端子) ⑪とスレーブ側のInput (XLRバランス入力端子) ⑬に接続します。
 - 上記の接続を繰り返すことで、以降のスピーカーを接続することができます。スピーカー構成に沿ったデジチェーン接続(※)が可能です。
- ※音源に音楽プレイヤーやキーボード、または本機のデジチェーン接続をする場合、Audio Input Sens. ⑫(入力感度切替スイッチ)を[Line]側に切り換えてください。



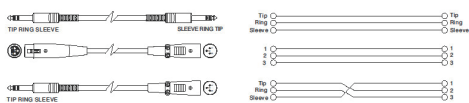
注意

- 電源を入れる前には、音源側の機器の音量を最小にして下さい。
- 入力機器のケーブルの接続や取り外しは必ず、本機の電源を切り、電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

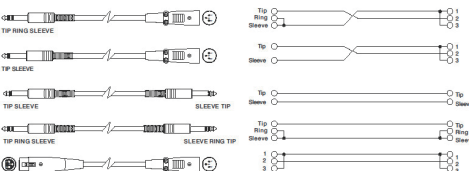
適合ケーブル

OPERAシリーズに適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

バランスケーブル



アンバランスケーブル



注意

- ケーブルの接続や取り外しは必ず、電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- 不完全なケーブルの使用、認証されていないケーブルの使用、およびシステム構成や使用する国の規格に適合しないコードまたは、ケーブルの使用による責任を負いません。

RDNetの接続

本機をリモート操作をする場合は、別売りのネットワークコントローラー (RDNet Control 2やRDNet Control 8) を使用して、制御したいスピーカーのData In 端子 ④(etherCON 端子) にネットワークコントローラーからのLANケーブル(市販品)を接続します。

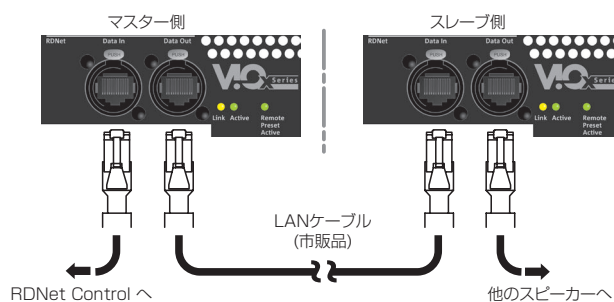
RDNet接続で複数機を制御する場合、マスター側のData Out 端子 ⑤からスレーブ側のData In 端子 ④にLANケーブル(市販品)で接続します。

この接続を繰り返すことで、接続されたスピーカーを制御することができます。

同様に複数のスピーカー構成がある場合、制御できるスピーカーの最大数は下記となります。

- RDNet Control 2 : 1 ch/32台 × 2 ch 最大 64台
- RDNet Control 8 : 1 ch/32台 × 8 ch 最大 256台

RDNet ネットワーク上に接続した機器が認識された場合、コントロールLED ⑥のLink LED (黄色) が点灯します。



RDNet ネットワークの使用の詳細は、12ページの「リモート機器の取扱説明書ダウンロード先」を参照してください。

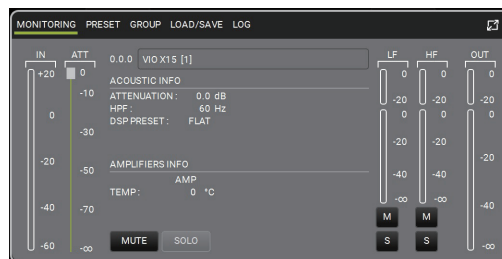
注意

本機をネットワーク接続で制御をする場合、Input Sens. ⑨やDSP Preset ⑩の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー本体でのローカル設定は、使用されません。) 設置前に本機およびシステム全体のスピーカーのパラメーターを物理的に複製保存することをお勧めします。

リモートコントロール

無料のAURORANETソフトウェアを使用して、RDNet接続による本機のパラメーターをリモートコントロールで設定可能です。

- パラメーター設定は、RDNet接続が正しく行われた後、AURORANETソフトウェアを使用することで、本機で設定するよりも、多くのパラメーターをリモートコントロールで設定できます。



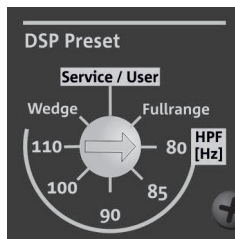
パラメーター設定画面

- RDNetとAURORANETソフトウェアによるリモートコントロールの場合、本機のローカル設定はバイパスされ、AURORANETソフトウェアによってすべて制御されます。AURORANETソフトウェアの使用の詳細は、12ページの「AURORA NET ソフトウェアのダウンロード先」を参照してください。

DSPプリセット

本機は、DSPによって処理される7種類のデジタルイコライザーがあらかじめプログラムされており、目的に応じてプリセット値を選択できます。

選択するには、小さなマイナスドライバーを使ってDSPプリセットを希望する番号に合わせてください。



Fullrange	低音から高音までをバランスが良く、出力します。
HPF 80 Hz ~ HPF 110 Hz	80 Hz ハイパスフィルター ~ 110 Hz ハイパスフィルター (90~110 Hz 以下をカット)
Wedge	ウェッジ設置時に床面との反射が、引き起こす低域への影響を軽減させ、フラットな状態になります。
USER/SERVICE	RDNet接続時は、設定値の保存先となります。また、ファームウェア更新時にも使用します。

トラブルシューティング

スピーカーの電源が入らない。

- 電源機器をチェックして電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik powerCON TRUE1 付電源コードおよびNeutrik powerCON TRUE1 付LINKケーブルの端子が、しっかり接続されて、時計回りにロックしているか確認してください。

スピーカーの電源は入るが、音が出ない。

- 各入力端子が正しく接続されており、Neutrik powerCON TRUE1 付電源コードを使用されているか、確認してください。
- ケーブル類に損傷がないか確認してください。
- 接続したミキサーなどの音源に電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の入出力レベルを確認し、適正な位置に合わせてください。
(本機のInput Sens. ⑨(入力感度調節ボリューム)の場所は、8ページの「各部の名称」を参照してください。)
- RDNet ネットワークに接続している場合は、AURORA NET ソフトウェア上で、MUTE機能が無効になっていることを確認してください。

スピーカーの音が歪んでいる。

- まず、接続した音源機器のボリュームを調整し、本機のInput Sens. ⑨(入力感度調節 ボリューム)を適正な値に調整してください。
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、交換してください。(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。)
- Audio Input Sens. ⑫(入力感度切替スイッチ)の設定が、それぞれの音源機器に合っているか確認してください。
 - [Line] 音楽プレイヤーやキーボードまたは本機のデジチェーン接続をする場合、[Line]側に切り換えてください。
 - [Mic] マイクを接続する場合、[Mic]側に切り換えてください。
- システムに合ったDSPプリセット設定が選択されているか確認してください。
- RDNet ネットワークに接続している場合は、AURORA NET ソフトウェアから、全てのパラメーターが適切な値に設定されていることを確認してください。
(本機がリモートコントロールされている場合、本機のローカル設定は、バイパスされますので、注意してください。)

各種ダウンロード

F/Wアップデート (USB Burner Manager ソフトウェア)

本機の全ての機能を確実に使うためには、F/Wを常に最新のものにしておくことをお勧めします。

定期的にdBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページをチェックしてください。F/Wの更新が合った場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

- ダウンロードページ
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>
- 1. 上記のDownloadページから"**Software & Controllerr**"を開いて、[USB BURNER MANAGER]ソフトウェアをダウンロードし、表示される手順に従ってインストールしてください。
- 2. 上記のDownloadページから"**VIO X**"を開いて、上段の"**Firmware**"の列と対象となる"**VIO X xx**"機種の行から、最新のF/W (zip 形式)をダウンロードしてください。
ダウンロード後、解凍してください。
- 3. [USB BURNER MANAGER]ソフトウェアを起動し、画面右上から、"**File Opening...**"を選択してください。
- 4. 先程ダウンロードしたF/Wを選択してください。
(お使いのシステムに最適かチェックします。)
- 5. UPDATEをクリックし、アップデート作業をスタートしてください。

注意

F/Wアップデート後の電源投入で、保存した各種設定が失われる場合があります。

リモート機器の取扱説明書ダウンロード先

リモート機器の取扱説明書については、dBTechnologiesのウェブサイトのダウンロードページから、"**Software & Controllerr**"の項目を開いて、上段の"**Manuals**"の列から対象となる名前のPDFファイルをダウンロードしてください。

- 取扱説明書
 - **RDNet Control 2**
"RDNet CONTROL_2_cod420120189_Revx.x-MAN.pdf"
 - **RDNet Control 8**
"RDNET CONTROL8_cod420120183_Revx.pdf"
- ダウンロードページ
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

アクセサリーの取扱説明書ダウンロード先

各アクセサリーの取扱説明書については、dBTechnologies社のウェブサイトのダウンロードページから、"**Installation**"の項目を開いて、上段の"**Manuals**"の列から対象となるアクセサリーのPDFファイルをダウンロードしてください。

- ダウンロードページ
<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

AURORA NET ソフトウェアのダウンロード先

ダウンロードとインストール方法

まず、dBTechnologiesのウェブサイトで、お客様のユーザー登録(→ 4ページを参照)を行ってください。

ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとソフトウェアのダウンロード先(MY DOWNLOADページ)に移動しません。

ダウンロード

ログイン後、dBTechnologiesの下記ウェブサイトでは本ソフトウェアをダウンロードできます。

- <http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>
ダウンロードページから"**Software&Controller**"の項目を開いて、上段の"**Software**"の列から Windows または Mac OS の圧縮ファイル(Zip形式)を選択すると、**MY DOWNLOAD**ページに移動します。
そのページから目的のファイルを選択して、圧縮ファイルをダウンロードしてください。

インストール

- Windows
ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、自己解凍型のファイルを開き、現れたフォルダー内のsetup.exeファイルを開いてください。
- Mac OS
ダウンロードしたディスクイメージを開き、**AURORA NET**のアイコンをアプリケーションフォルダーにドラッグしてください。

注意

ソフトウェアをダウンロード中は、PCの電源を切らないでください。故障の原因になります。

ソフトウェアの使用に関して

本ソフトウェアは、AEB INDUSTRIALE s.r.l. に帰属し、使用に際しては、同社の定める使用許諾条件によります。

仕様

形式

2-Way アクティブスピーカー

スピーカーユニット

HF コンプレッションドライバー

VIO X10	: 1 インチ × 1 (1.75 インチ ボイス コイル 採用)
VIO X12	: 1.4 インチ × 1 (2.5 インチ ボイス コイル 採用)
VIO X15	: 1.4 インチ × 1 (2.5 インチ ボイス コイル 採用)

LF ユニット

VIO X10	: 10 インチ × 1 (2.5 インチ ボイス コイル 採用)
VIO X12	: 12 インチ × 1 (3 インチ ボイス コイル 採用)
VIO X15	: 15 インチ × 1 (3 インチ ボイス コイル 採用)

指向性(カバレッジ)

	(H)	(V)
VIO X10	: 90° ×	40°
VIO X12	: 60° ×	40°
VIO X15	: 60° ×	40°

アンプ部

形式	: Digipro G3 クラスD
RMS出力	: 900 W (※)
ピーク出力	: 1800 W (※)
冷却システム	: 自然対流式

※ AC120 V時での値になります。

DSP部

コントローラー	: 28/56 bit DSP
AD/DA処理	: 24 bit/48 kHz
プリセット	: 初期設定値 × 8 (内 1 つは、ユーザー設定用)
ユーザー設定	: 入力感度切替スイッチ 入力感度調節ボリューム
リミッター	: ピーク、RMS、サーマル
警告LED	: リミッター、信号入力、ステータス、オン
状態LED	: リンク、アクティブ、リモートプリセット 有効

周波数特性

	[-10 dB]時	[-6 dB]時
VIO X10	: 73 ~ 21,400 Hz	82 ~ 20,000 Hz
VIO X12	: 62 ~ 22,000 Hz	79 ~ 21,000 Hz
VIO X15	: 55 ~ 22,000 Hz	72 ~ 21,000 Hz

最大SPL

VIO X10	: 130 dB
VIO X12	: 132 dB
VIO X15	: 133.5 dB

クロスオーバー周波数 (24dB/oct.)

VIO X10	: 1,600Hz
VIO X12	: 1,000Hz
VIO X15	: 1,000Hz

外部入力

Input 端子	: XLR 端子 (メス) × 1 (バランス) (Line/Mic 切替式)
USB 端子	: B タイプ × 1
RNet 端子	: etherCON 端子 × 1 (Neutrik 社製)

外部出力

Output Link 端子	: XLR 端子 (オス) × 1 (バランス)
電源 Link 端子	: powerCON TRUE1 端子 × 1 (Neutrik 社製) (最大供給電流: 15.6 A/1710 W)
RNet 端子	: etherCON 端子 × 1 (Neutrik 社製)

一般

電源

電圧 : AC 100~240 V(自動切替式)、50/60 Hz
電源端子 : Neutrik社製 powerCON TRUE1端子

注意

日本国内においては、AC100 Vのみ動作保証となります。
(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

動作温度

-5 ~ +50℃

外形寸法

幅 x 高さ x 奥行き (突起部を含まず)

VIO X10 : 280×550×375 mm

VIO X12 : 340×650×445 mm

VIO X15 : 400×750×475 mm

質量

VIO X10 : 16.6 kg

VIO X12 : 20.7 kg

VIO X15 : 25.4 kg

消費電流

2.1 A (100~120 V時: 通常1/8 出力時) ※1
4.4 A (100~120 V時: 最大1/3 出力時) ※2

消費電力

19 W ※3

※ 1: 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/8の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態)
いかなる構成時でもこれを最小値としてください。

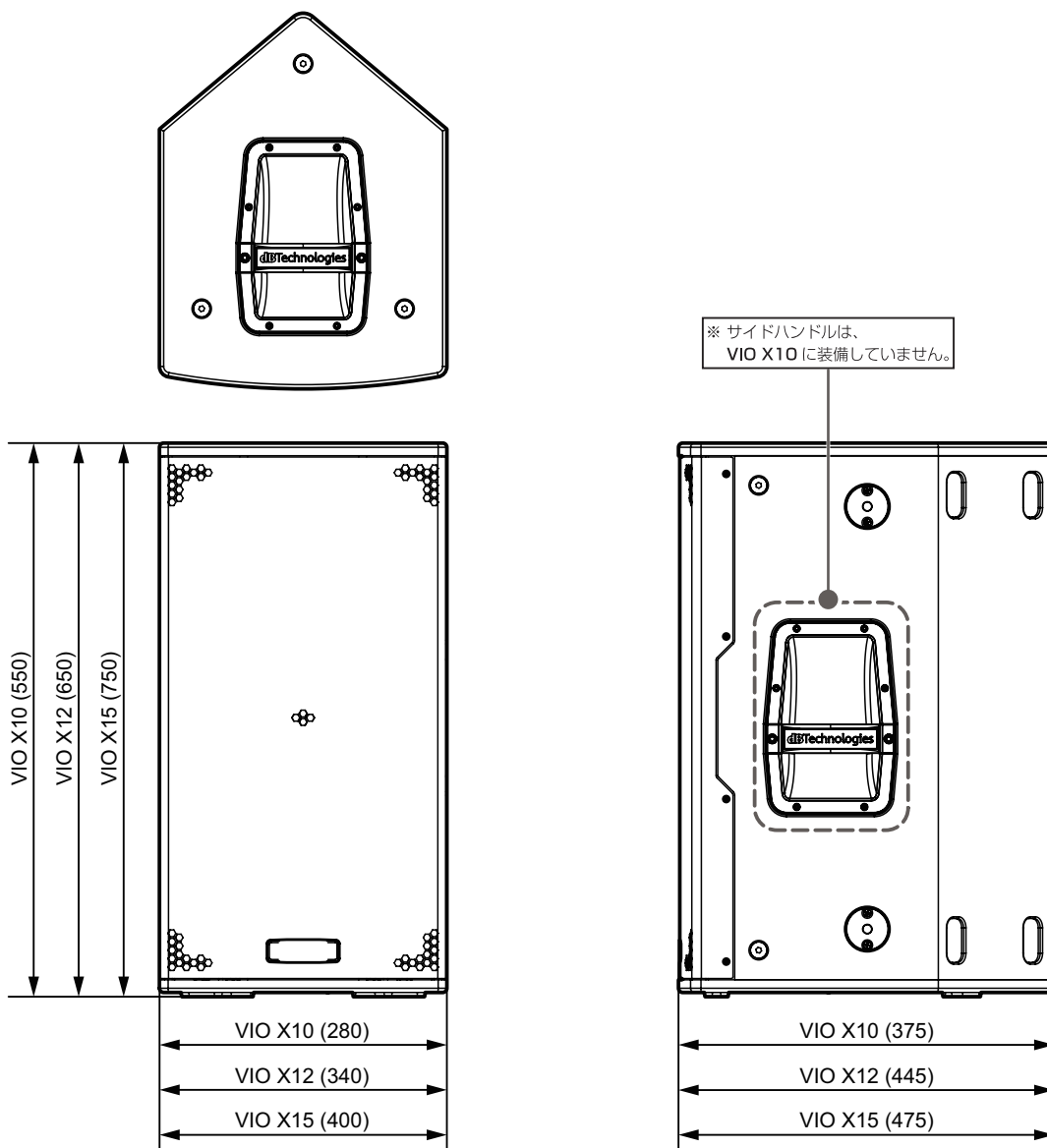
※ 2: 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/3の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングとリミッターの作動が頻繁に発生
する状態)

プロ 設備やツアーの場合は、これらの値に従ってサイジング
を決めてください。

※ 3: 電源オンで入力信号がない時

突入電流

4.6 A





無料修理規定(持ち込み修理)

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼に出来ない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
(1)ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
(2)お買い上げ後の輸送/移動/落下などによる故障および損傷
(3)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
(4)接続しているほかの機器に起因する故障および損傷
(5)業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

(6)メンテナンス

(7)本書の提示がない場合

(8)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
These warranty provisions in Japanese are valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- ※ この保証書は、本書に明示した期間/条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障/修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

- 携帯電話、またはナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

保証書

品名 および 形名	dBTechnologies VIO X10 / VIO X12 / VIO X15		
機番			
保証期間	本体	1年	

お買い上げ日	年 月 日		
お客様	お名前		
	ご住所		

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただきます場合がございますので、ご了承ください。

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から左記の期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店			
電話			

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

電話：0570-000-501(ナビダイヤル) / 04-2901-1033

0619 MA-2959A